

# TOKYO SDGs 体感ツアー (株式会社グッドライフ多摩)(旅行業)

## 株式会社 グッドライフ多摩

- 代表者名 代表取締役社長 石原 靖之
- 所在地 〒190-0022 東京都立川市錦町2-6-12  
メゾンブロード立川302
- 会社HP <https://tokyomountain-tours.jp/>

### 1. 多摩地域での暮らし「文化、経済」を豊かに 多摩地域を「情報が飛び交い、 広域宣伝できるエリアに！」

株式会社グッドライフ多摩は、多摩地域の活性化、問題解決事業に取り組む2016年設立の企業である。東京西部の多摩地域と向き合い、地域課題に対して、あらゆる資源とネットワークを駆使し解決を図ることを理念としている。主力事業は、多摩地域での広域情報流通と広域宣伝の実現に向けた「多摩メディアセンター事業」である。多摩地域は、23区に隣接していることもあり、400万人を超える人口でありながらも地域全域をカバーする大きなメディアが存在していない。それゆえ広報宣伝は、市町村単位となりがちであり、近隣市町村との連携によるエリア単位の取組みが不足しているという課題があった。

そのため、多摩地域にある地域メディアのネットワークを形成し、「多摩メディアセンター」を作ることで、市町村単位を超えた情報が行き交う仕組みと、大きなメディアが存在しなくても広域宣伝ができる仕組みを構築した。これにより、情報を通じて多摩地域の活性化に寄与し、多摩で暮らす人びとの生活をより豊かなものにしたと考えている。具体的には、エリアの魅力を多くの方に届けるため、イベント・観光・タウン情報ポータルサイト「イマタマ」の運営や広報物の制作などを行っている。

### 2. 地域課題への対応 ～プロジェクトを設置～

「多摩地域」は、都心からも近く、多くの観光客を期待することができる地域である。

なかでも東京山間地域である「西多摩エリア」は、都心からもわずか60～90分で訪れることができる一方で、美しい山々や多摩川清流など驚くほど豊かな自然景観が残っており、川遊びをはじめカヌーのようなレジャースポーツも楽しむことができる地域である。自然の魅力と移動の便利さを兼ね備えている素晴らしい地域である。

しかしながら、この魅力を、都心だけでなく同じ多摩地域内ですら知らない人が多いなど、地域情報が広範囲に流通しないという課題があった。

また、都心に近く多くの観光客に恵まれそうな多摩地域でも、冬季は課題である。春は花見、夏はバーベキュー、秋は紅葉と、季節ごとに楽しむことができる一方で、冬季は来訪者が少なく、各事業者共通の課題となっている。これは、人材の定着にも支障が生じるおそれがあることから重要な課題である。

このような地域課題解決のため、この魅力をより多くの人びとに届けるため、地元多摩地域の観光(レジャー、宿泊、交通等)・アウトドア事業者の方々、特に30～40代のキーパーソンと共に、東京山間地域エリアの「観光創出事業者ネットワーク組織(プロジェクト)」を立ち

上げるに至った。

その背景には、これまでの事業を通じて、「このエリアには、世界に誇る文化や魅力的な観光資源が無限にある」、そして「その魅力を十分に知り、発掘し、観光事業を行っている熱意ある事業者たちが数多く存在する」と感じていたことがある。したがって、この地域を「滞在型の観光エリアとすること」、および「外国人客も泊まって楽しめる人気エリアにすること」を目指すこととした。また、多数の観光客が1人1回だけ訪れるようなエリアを目指すのではなく、都心から近いという長所を活かし、1人が何度も訪れるエリアを目指している。

### 3. 東京の山間地域でツアーを通じてSDGsを実現 ～「TOKYO SDGs体感ツアー」～

プロジェクトメンバーで勉強会や視察、「地域として何をやっていくべきか」等の議論を行ってきたところ、「人と触れ合うこと」の重要性に着眼し、「会う旅」をコンセプトとするとともに、地域内外の人びとと永くかかわるためにも「サステナブル」の重要性を強く認識し、「SDGs」というテーマに取り組むこととし、「TOKYO SDGs体感ツアー」として東京の山間地域で体験型ツアーを通じたSDGsの実現を目指すこととなった。

その1つでメディアや企業から注目されているのが、「東京の水源を守る！多摩川リバークリーンツアー」である。東京都の水源であり、日本の名水100選の清らかな溪流をもつ御岳渓谷にて、上流から下流、約5kmのコースをラフティングのボートに乗って、ゴミを拾いながら川下りを楽しむ商品である。

ラフティング世界選手権2位の経歴をもつガイドが案内する。SDGsに興味のある方、リバーアクティビティを楽しみたい方等をターゲットとしているが、「楽しい」と参加者から好評で



あることから定番商品化を予定している。

### 4. 今後の展望～多摩地域の持続可能な地域づくりに向けて～

「多摩川リバークルーズツアー」等の「TOKYO SDGs体感ツアー」は、多摩地域の持続可能な地域づくりに向けて大きな意義がある。

地域内の事業者がネットワークを形成し、地域一丸となって取り組んでいること、ツアーの企画にあたっては、トレンドに流されるような一過性の商品ではなく、地域の将来を考えた商品であること、そして、訪れる人びとに対し、SDGsという観点から地域の素晴らしさとありがたさを伝えていること等、実に意義深い商品である。

「TOKYO SDGs体感ツアー」は、地域課題解決がテーマでもあることから、地元との連携が欠かせない。そのためには地元の理解を深めることが重要であるが、催行を重ねることで地元の見方も変わってきたと実感している。今後も地元との協力関係の強化、維持に努めていきたいと考える。

現在、東京の山間エリアは人口減少が顕著である。このような状況を受けて、都心と山間エリアとの両方に拠点を持つ、2拠点居住者を増やすべく、そのきっかけを提供したいと考えている。その際には地域の将来を考え、「こういう方に来てほしい」という発信を心がけている点もユニークである。

今後も地域一丸となって課題解決に向けた取り組みを進め、東京山間地域の地域経済の活性化、文化や自然環境の保全、コミュニティ維持など持続可能な地域づくりにつなげたいと考えている。

独立行政法人 中小企業基盤整備機構

経営支援部 中小企業アドバイザー（経営支援） 砂子 隆志